

「今年(23年6月期)も残りわずかとなりましたが、一週りで経常利益29億円を計画していたが、22億円へ下方修正を余儀なくされた。海外の景気減速懸念による金属スクラップの輸出が減少。それ以外の取り扱い量も落ち込んだことが主な要因だ。しかし、連結子会社でリチウムイオン電池(LIB)リサイクルのVOLTAが計画を大幅に上回る利益を計上している。一つでも光るものがあった」

「エネルギー価格の高騰がネックです。」

「加工コストの低減を中長期的に取り組む必要がある。シュレッダーへの投入の半自動化など省人化、生産効率化設備の導入を検討している」

「中計を前倒し達成した。新計画達成に向けた写真」

「国内において原料発生が大きく伸びている中、今後どう原料を確保するかが問われている。カーボンニュートラルをキーワードに有価物を、全国を網羅する形で、新しい視点で集荷できる仕組みづくり

## 2023 トップインタビュー サステナビリティ経営の針路

### エンビプロホールディングス 佐野 富和社長



「24年4月にしていることもあり、いち早くはLIBリサイ事業化にこぎつけた」

「金属リサイクル事業は、茨城県ひたちなか市で稼働予定。廃LIBのかみで稼働予定。廃LIBの加工処理能力を現行比3倍に引き上げる。さらにLIB由来のブラックマス(BMI)を必要とされているのを見ると、世界でアメタルの濃縮(リッチ)からリッチを余らせないという市場からのメウム、コバルト、ニッケルを回収する湿式製錬事業を25年にスタートする計画だ」

「25年の事業化に向け、三菱マテリアルと共同で湿式製錬技術の開発をまさに今進めつつある。最終的に回収したレアメタルをLIBメーカーに還元する『電池to電池』のクロードループを構築したい。グローバル展開も視野に入っている。LIBリサイクルは、アジアでは韓国や中国が先行し、機関とスクラムを組むことに

### 「スコープ3」のCO2排出低減

## リデュース・リユース・リサイクルシステム開発へ

「国内において原料発生が大きく伸びている中、今後どう原料を確保するかが問われている。カーボンニュートラルをキーワードに有価物を、全国を網羅する形で、新しい視点で集荷できる仕組みづくり」

「欧州のバッテリーパスポートの導入により、日本でも経産省が同様の仕組みの導入を検討し始めた。資源循環率と温室効果ガス排出量をトレースしてデータを管理。『スコープ3』のCO2低減に寄与す

「リデュース・リユース・リサイクルシステム」の開発を推進している。最終的に回収したレアメタルをLIBメーカーに還元する『電池to電池』のクロードループを構築したい。グローバル展開も視野に入っている。LIBリサイクルは、アジアでは韓国や中国が先行し、機関とスクラムを組むことに

## 三菱マテリアルと共同で LIBリサイクル技術の開発加速

「15年に廃ゴム・タイヤリサイクルの東洋ゴムチップを子会社化したことで、ゴム製品のリサイクル、再製品製造にも事業領域を拡げ、加工ノウハウを培ってきた。日東化工は工業用ゴムのコンパウンドや成形加工を手掛けるなど、より高い加工技術のある会社。同社の子会社化で我々が事業戦略として重視する『電池』『磁石』リサイクル以外に、『タイヤ』もタイヤtoタイヤなどの資源循環ループを構築できると踏んだ」

「従来、廃タイヤは製紙会社の燃料代替材として活用するサーマルリサイクルが多かったが、マテリアルリサイクル(MR)への需要がタイヤ、スポーツカーなどから高まっている。日東化工が有するインフラの活用で、世界で例が少ない廃ゴムのMRも実現できそうだ」

(齊藤 直人)